

東川流域における住民意向調査結果について

三井共同建設コンサルタント株式会社 ○能瀬 康人
東京都立大学 工学部 安藤 義久
社団法人 雨水貯留浸透技術協会 大久保信彦
埼玉県 新河岸川総合治水事務所 小林真五郎

1. はじめに

近年、流域の都市化に伴う水循環の歪みにより平常流量の減少、洪水流量の増大、水需要の不均衡拡大、水質の悪化などの諸問題が発生しており、これらの問題解決が大きな課題となっている。平成7年に埼玉県では、特に流域の都市化が著しい東川流域（所沢市）を水循環再生構想策定のための対象流域とし、「東川流域協議会」が発足した。

本調査は水循環再生構想策定のための一つとして、地元住民および行政の視点から見た過去における東川像、現在抱える問題点と課題、今後期待する東川像を把握することを目的に行った。

2. 東川流域の概要

東川は、所沢市民にとっては、「弘法大師の伝説を持つ三ツ井戸のある川」、「新田義貞のえびらの梅のある川」、「桜並木のある川」として知られた川である。

高度成長期以前の東川沿川は、旧町を除いて典型的な武蔵野の面影を残す川であったが、高度成長期以降の首都圏への集中の波が所沢市にも押し寄せ、現在人口は昭和30年当時の約6倍にまで膨れ上がり、武蔵野の面影は上流部、下流部にわずかに残る程度となっている。人口増加は東川流域の市街化を進め、従来雨水が良好に浸透していた地表を屋根や舗装等の不浸透域で覆い尽くすことにより、東川における洪水流量を増加させるだけでなく、平常流量の減少や下水道未整備区域においては生活用水の河川への排水の増大を招き、水質の悪化を引き起こした。

このように東川は現在、武蔵野の面影を残す川から都市化された川へとその様相を変えてしまった。



写真1（昭和30年代）

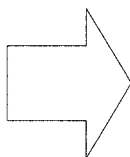


写真2（現在）

3. 住民意向調査の内容

住民意向調査は合計23の設問から成り、問1～問5ではモニターの住所、性別、年齢、職業、川からの距離、問6～問12では現在の東川に対するイメージや関心事、問13～問19では今後、東川を整備するに当たり配慮すべき点および東川において望ましいと思われる平常時の水量・水質、問20～問23については自由意見として東川に関わる歴史、文化、意見について聞くことにした。

キーワード：水循環、住民意向調査、問題点と課題、平常時の水量・水質

連絡先（東京都新宿区高田馬場1-4-15、☎03-(3205)-5748、FAX：03-(3204)-6010）

4. 住民意向調査の結果

住民意向調査は平成8年10月22日～29日に行われ、地元住民67人、行政職員12人の合計79人から回答を得た。

1) モニター対象者の傾向

地元住民に関しては沿川（500m未満）に住む人が67人中43人と約65%を占めている。そして沿川に住む人に関しては上流、中流、下流に均等に分布している。また、年齢的には働き盛りの40～50歳代が最も多く、少年時代に東川で遊んだ経験を持つ人が多い。

行政職員は40歳から60歳までの男性が最も多く、現在の役職に就いてから在任3年以上が最も多い。

2) 現在の東川に対するイメージ

地元住民では東川＝水の汚れてる川と答える人が多い。しかし同時に、少年時代に水遊びや魚釣りをした身近な川と答えている人が多い。

行政職員では地元住民同様東川＝水の汚れている川と答える人が多いが、幾度となく洪水に悩まされてきた経験から、洪水の不安がある川と答えている人が多い。

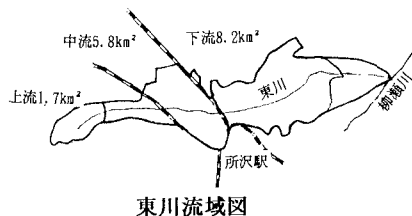
3) 今後、東川を整備するに当たり配慮すべき点

地元住民は自ら川で遊んだ経験を次の世代（子供達）に伝えるため、「川の自然環境を保全する」、「川の自然に親しめる場の整備」、「川の水質を良くする」等、環境整備と水質浄化に要望が多い。

行政職員は住民の生命と財産を守る等の立場から、「洪水をなくす治水施設を整備する」という要望が多く、同時に「安定した水量を確保する」、「川の水質を良くする」という水量・水質に関する要望も多い。

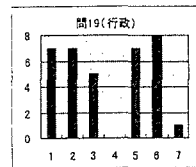
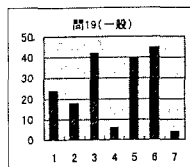
4) 自由意見

過去（昭和30年代）には大人達は野菜や障子、養蚕具の洗い場、子供達は絶好の水遊び場として川を利用していた。また、除草など地域ぐるみで川に関わっていたという意見があった。



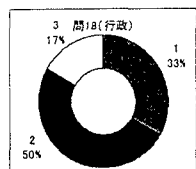
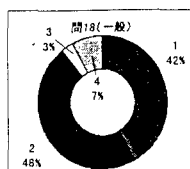
モニター内訳表

	地元住民		行政職員	合計
	沿川	その他		
上流	14	0		
中流	15	13		
下流	14	4		
流域外		6		
無記入		1		
合計	43	24	12	79



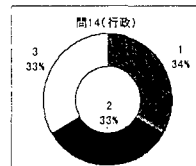
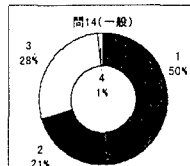
1. 洪水をなくすための治水施設を整備する 2. 安定した水量を確保する 3. 川の自然環境を保全する
4. 災害時の緊急避難場所を整備する 5. 川の自然に親しめる場の整備 6. 川の水質を良くする
7. その他（ ）

東川を整備に当たり配慮すべき点



1. 大人の膝下程度（約50cm） 2. 大人の膝下程度（約30cm）
3. 大人の足首程度（約10cm） 4. とくにこだわらない

水量に対する要望



1. 水に入れる程度 2. 水に触れる程度
3. 水を見る程度 4. とくにこだわらない

水質に対する要望

5. おわりに

本調査では地元住民が要望する水量は「大人の膝下程度」水質は「水に入れる程度」という回答が最も多く、今後はこの調査結果を東川流域協議会で討議し、水循環再生構想を策定する予定である。

謝辞

本調査において多大な御協力を頂いた埼玉県、所沢市職員および地元住民、その他関係者の皆様に深く感謝致します。